



【写真上】出し物をする上級Ⅱ班の面々

【写真下】景品獲得のジャンケン

## 介绍一下我的学习方法

初級班 林正昭

中国語との出会いは仕事です。

海外事業を担当した私は、海外との日々のやり取り以外に、研修生の受け入れも担当いたしました。日本語を理解できないメンバーも多く辞書を片手に筆談です。少しでも話せるようになりたい！と、必要に駆られてのスタートでした。

よく使う・使われる言葉をメモし、暗誦することで次第に単語が文章に、文章が会話へと展開できるようになりました。

そんな時、中国に出向き現地スタッフと共に改善活動する機会を得ました。五ヶ月間でしたが中国を、また中国人を理解する大変貴重な体験ができ、すっかり中国ファンになりました。

退職した今ですが、また彼らと再会できる日を楽しみに中国語学習を再開しているところです。

# 楽しく学んだ合同学習会

## 蹉跎生涯学習Cに35人が集う

昨年11月20日（日）午後1時半より、蹉跎生涯学習センターで、枚方中国語を学ぶ会の合同学習会が行われ、各班から35人（老師を含む）の参加がありました。

第一部の学習会では、まず上級Ⅰ班の土岐さん、波多さん、上級Ⅱ班の磯野さんから、中国語学習を始めたキッカケ、学習方法、中国語への興味等についての報告がありました。

ついで、全員で「中国語発音の基礎ゲーム」に挑戦しました。

このゲームは、同CDをPCを使ってテレビ画面に映し出し、登場する出題者や回答者の発音を聴き、解答用紙にある4つの答えの内、正しいものを選択するというもの。「母音」や「子音」など、基本的な聴き取り

で、入門班から上級班までが楽しみつつ、大いに学び、成績優秀者には景品がありました。

第二部の懇親会では、入門班のメンバーが4月来の学習の成果とも言うべき、中国語での自己紹介とあいさつを披露されました。

さらに、中級班の歌（何日君再来など2曲）、上級Ⅰ班の謎々、上級Ⅱ班の中国語クイズ「この昔話は何？」もあり、大いに盛り上がりました。

そして、最後に恒例となった今西事務局長による「一本締め」で会を終えました。



## 西川会長の中国語余話

### 挨拶語を考える その2

今回も食事の場面における挨拶語・文化についてです。

中国人に、特に自宅で食事をご馳走になる時に注意が必要です。美味しそうな料理が出てきても慌ててはいけません。特に最初の一箸は、招待側が客に料理を目の前の小皿にとってくれますので我慢して下さい。宴会での食事と同じです。そして、料理はすべて食べ尽くさないのがマナーで、出された料理を無理して全て食べてしまうと、中国人は「料理がまだ足りない」と理解してしまうようです。

なので、料理を「少し残すぐらいに十分いただいた」ことを示すために少し残した方がいいようです

さて、挨拶の言葉ですが、中国文化では、食事の際に「いただきます」「ご馳走様でした」を言う習慣がありません。これでは日本人はこまってしまうですね。「ご馳走様でした」＝「谢谢，吃好了」となっていますが、本当は「请多吃一点（どんどん召し上がれ）」に対する応答の言葉（「もう十分いただきました」）ですので、客が先に言う言葉ではないということです。

ほんと挨拶語も難しいですね。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_